

特集

Dr. Patricia A. Gradyを迎えて 看護研究者としての 成長とキャリアパスを 考える

“NINR”といえば、いわずと知れた米国の看護研究の中枢を司る機関です。研究所として昇格したのは1993年なので歴史は比較的新しいですが、医学研究において世界最大の予算規模を誇るNIHの一部門とあって、米国の看護研究全体の動向を左右する重要な意思決定機関といっても過言ではありません。そのNINRのトップとして、長年にわたりディレクターを務めてこられたDr. Patricia A. Gradyがこのたび来日し、さる2019年3月21日(木)、特別講演会「看護研究者としての成長とキャリアパスを考える——あなたはどのような研究者になりたいか?」(於医学書院)が行なわれました。本特集では、この講演会の模様をお届けいたします。

もともと本講演会は、真田弘美先生(東京大学大学院医学系研究科教授)がセンター長を務められている東京大学大学院医学系研究科附属グローバルナースングリサーチセンター(GNRC)の事業の一環としてDr. Gradyを招聘するにあたり、あわせてGNRCのバックアップのもと、日本看護科学学会(JANS)と医学書院の共催という形で実現したものです。

本講演会のテーマは、Dr. Gradyの豊富なご経験に基づくNINRの研究活動や戦略を紹介しつつ、看護研究を行なうことの意義や看護研究者としてのキャリアパスの形成に焦点が当てられており、講演の主な対象者は、わが国の看護研究の未来を担う若手研究者でした。さらに、現在、日本学術振興会の海外特別研究員として、まさにNINRで研究活動に取り組まれている後藤大地先生に登壇いただくとともに、Dr. Gradyに加えて本講演会に協力いただいたJANSの先生方、すなわち、これまでも現在も第一線で活躍されているシニア研究者もまじえて、日本の若手研究者の先生方とのディスカッションも行なわれることになりました。

本講演会には数多くの方に参加いただき、終始、活発で熱い議論がかわされながら、盛況のうちに幕を閉じました。Dr. Gradyはもとより、本企画をディレクションしていただきました真田弘美先生、そしてご協力いただいたJANSの先生方、GNRCの先生方、そしてご参加いただいた皆様に、この場を借りて心より御礼申し上げます。本特集が、これからの看護研究者に数多くのヒントや示唆を与えつつ、未来へ挑戦しようとする勇気が得られる契機となれば幸いです。

〔なお、3月23日(日)には日本看護系大学協議会主催によりDr. Gradyの講演が行なわれました。こちらの内容は、号を改めてご紹介いたします〕。

(『看護研究』編集室)